
関連施設

田上診療所

訪問看護ステーション野の花

わらび苑

院内保育所

田上診療所

鍼灸マッサージ師 森谷 五月

院長：竹野 孝一郎
 事務長：古元 康德
 看護師長：政田 育子
 看護師：光都志子、大川鮎美、秋田由紀代、
 宮脇みき子、峯下代美子
 物療：森谷五月、長野慎二、上窪典恵・長田眞理子
 受付：事務：田崎亜沙美、平山さゆり、秋田幸子

今年の5月から診療所のリハビリ（物療）の方に勤務しています。

出身は鹿児島市内で、種子島にもまだ慣れてない状態で現在患者様に種子島弁を聞きながら勉強中です。

職員の方々は、料理が上手で昼食時間に持参して食べていますが、そこそこの料理の上手な私でも負けます。郷土料理は勿論のこと色々な料理を皆さんに教えてもらい、いつになるか分かりませんが皆さんに美味しいと言われるように頑張りたいと思います。

職員や患者様とコミュニケーションを取りながら、治療を受け易い雰囲気を作れたらと思っています。

診療所の見学を兼ねてリハビリと食事に一度お越し下さい。

田上診療所外来担当医表

診療時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00 ~ 12:00	竹野孝一郎 (内科)	竹野孝一郎 (内科)	竹野孝一郎 (内科)	竹野孝一郎 (内科)	隔週 竹野孝一郎 (内科) 隔週 野田政博 (内科)	竹野孝一郎 (内科) 隔週 整形外科
14:00 ~ 17:00	竹野孝一郎 (内科) 楠松貴成 (小児科)	隔週 猿渡邦彦 (皮膚科) 隔週 遠迫孝昭 (内科)	第1・2・3・4週 田上寛容 (内科) 第5週 竹野孝一郎 (内科)	竹野孝一郎 (内科)	岩元二郎 井上博貴 (小児科)	隔週 整形外科

※田上診療所では、内科・皮膚科・整形外科の診療も行っていますが、今年4月より小児科の診療も行うようになりました。

※皮膚科・整形外科の診療日の週が、変更になる場合がありますので来院される前にお問い合わせ下さい。

訪問看護ステーション 野の花

管理者副師長 平園 和美

管理者／平園和美
 看護師／鳥巢良子、北蘭ゆかり、荒木舞
 理学療法士／坂口淑子、吉武寛朗、田野瀬幸香
 言語聴覚士／松尾あやの
 事務職員／長野さゆり

【理念】

私たちは、思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で、住み慣れたお家や地域で安心してすごせるように健康管理や日常生活の支援に努めます。

【利用者数】

訪問看護 39名
 リハビリ 79名 (H29.5.31現在)

高齢者が住み慣れた地域で安心して生涯を過ごすことのできる社会づくりを目指す「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。

そういう中、昨年9月より訪問看護ステーションに、リハビリ（理学療法・作業療法・言語聴覚）が加わり、島内全域での訪問によるリハビリが可能になりました。障害や寝たきり状態で通院でのリハビリが困難な方を対象に、種子島の最南端、門倉岬まで訪問（リハビリ）しています。（看護師による訪問は西之表市内のみとなっています）

看護師とセラピストとの情報を共有し、利用者、家族の不安や問題があれば、主治医やケアマネに相談し、早めに対応するようにしています。現在まで問題になるような苦情は、1件もありません。常に顔の見える関係にあるので、利用者や家族との信頼関係が成り立っているものと思われれます。

国の施策で在宅ケアを推進していますが、実際に訪問すると90歳の超高齢者が介護している老老介護、認知症の診断を受けてい

る夫婦世帯の認認介護と介護の現場は、とても厳しい状況にあります。もっとみんな（家族、地域、行政・・・）で知恵、力を出し合い、他にも対策をとらなければ、住み慣れた家で過ごすことは難しいと思います。「よろ～て ぎばろうわい」（一緒に頑張りましょう）

「24時間・365日 安心をお届けします」という気持ちで毎日取り組んでいます

～野の花 くろじょか～

100歳 女性 N・Yさん

「夜眠れん（今に始まったことではない）、膝も痛くなった。いよいよ、私もお年寄りの仲間入りかな（笑）」

介護老人保健施設 わらび苑

施設長 猿渡 邦彦

平成29年4月1日よりわらび苑へ奉職しております。この日は私の医師人生51年目の初日でもあります。又私が尊敬する阿世知節夫先生が初代の施設長であられた由、何かの縁を感じております。私の経歴は中学、高校の6年間を長崎県の壱岐で過ごし、当時、日本で1番易しい国立大学であった鹿児島大学の医学部に入学、卒業後15年間大学などで皮膚科学を勉強し39歳で鹿児島市に皮膚科の診療所を開院、丁度30年間を節目に長男に継いでもらい3年間壱岐の療養病棟勤務、縁あって私の唯一尊敬する後輩である高尾先生（現医療センター院長）の薦めもあり当時の田上病院に勤める様になりました。丸2年間包括ケア病棟に勤務し3年目の本年4月1日わらび苑勤務となりました。何故わらび苑へかと申しますと、前施設長の松山先生が辞められると判明したのが1年前でした。当時私の周りにはわらび苑勤務経験者が数名おり、異口同音に“わらび苑は良かった、また勤務したい”との話を聞いておりましたので、病院先輩の池村先生の諒解を戴き施設長に立候補しました。すんなり決定しました。ところがです、先ず目についたのは正門のわらび苑の看板！支柱は腐りかけているし、ペンキは剥げかかっている、草はボウボウ、見るからに無惨な光景！いったいここでどんな介護が行われているのだろう、苑の中（建物の外側）も全くの無惨な有様！来なければ良かったと一瞬思いました。建物の中に入ると挨拶をしない人が半分、再びどんな介護などが行われているのだろうと思いました。ところが一転、あの無愛想な職員の皆が仕事は一生懸命、その姿には驚きを感じさせられました。外観とは全く異なるケアが行われておりました。ここで再び来て良かった所だったと思直しました。ところがです、皆はいっぱいいっぱい働いているのに私には仕事がないのです。4月中に私が必要とされたのは、入所のHさんですが、

急に意識が無いとの連絡がありました。かけつけてみるとすでに正常に戻っておられました。おそらく起立性低血圧症で脳貧血を起されたものでした。私の仕事はこれ1回だけです。職員の皆さんと私との仕事の落差が余りにも大きく、やはり私は僻地の診療に尽くすべきと思直しました。しかし20数年間、ツツジなど剪定はされているものの、下草の処理は全くなされておらず、すでに数10本の木々は枯死しており、裏の大きな梅の木もあと数年の命でしょう。桜の木も栄養が雑草に取られ、枝が非常に少ない状態です。ツツジの下に潜ってみると、かずらの枝が縦横無尽に這い廻っており多数の部位で根をおろしており、これも放置すると植栽が栄養不足になり枯死に至ります。私はこの苑を辞めたい一方、現在この命ある植栽を見捨てる事ができません。現在の職員の皆さんには外の仕事までやってもらう訳にはいきません。中の仕事でも労働力が不足している状態なのですから。しかしこの苑の外周りの管理には専従職員が1人は必要です。最適の人物が居ますので、本院の白尾事務長に一度掛け合いましたが断られました。しかし私は諦めないで交渉する心積もりです。その人物は塩崎君です。専従の人が来てくれるまでは私が頑張る決心をしております。正門の近くは一応すみましたが1年以内には全て終えられると予定しています。1ヵ月もすれば再び生えてきますがそれに対する対策は考えております。いずれにしても、現在の我々の生活の基礎を作ってくれた老人の方々を世話する環境としては恥かしい限りです。この苑の植栽の保全は絶対必要な事ですので、理事会などでも発言し予算なども考えてもらいたいと思います。ただ今イチバン悩んでいるのは開苑当初、池あるいは芝生だった今のカヤだらけの場所をどの様にするかです。いい考えがあれば聞かせてほしいです。よろしくお願い致します。

院内保育所

主任 大木 鈴香

主任／大木鈴香

中村智美、新原祐子、岩本シゲ子、鮫島めぐみ、徳永純子

◎活動内容

0歳～2歳の子どもを中心に24時間保育を行っています。

天候に応じて、散歩や水遊びをしたり、雨の日は、制作活動やゲーム、リズム遊びなどをしています。また季節を感じて楽しむように、お花見をしたり、どんぐりやまつぼっくりを拾って作品を作ったりしています。

生活面では、1、2歳児がトイレトレーニング中です。張り切ってオマルに座る子どもたち。時には失敗もありますが、ズボンも自分ではこうと頑張っています。言葉も増え、自分の意思をしっかりと伝えるようになりました。

衛生面でも、感染症や病気が広がらないように、手洗い・うがいの徹底やおもちゃの消毒、室内の清掃など日々取り組んでいます。

ます。保育所職員は、子どもたちが安全で健康に過ごせるように、そして、保護者のみなさまが安心して働けるように頑張っています。

